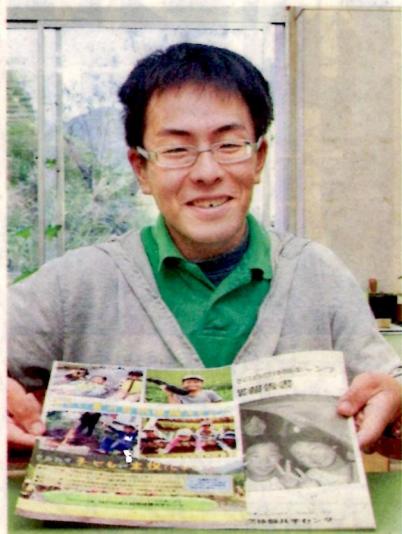


子どもたちの自主性重視

福井「自然体験共学センター」

活動15年目を迎える



「誰にとっても居場所の良い場所をつくりたい」と話す細川和朗さん＝福井市のNPO法人「自然体験共学センター」で

「居心地の良い場所に」

県内外の子どもを対象にキャンプなどを運営しているNPO法人「自然体験共学センター」（福井市中手）

細川理事長、浸透日指す

町）の活動が、十五年目を迎えた。理事長の細川和朗

さんは、自身の不登校の経験も踏まえ「誰にとっても居心地の良い場所をつくりたい」とさらなる浸透を目指している。

細川さんは長野県小諸市出身。インターネットで同センターの存在を知り、大学四年の時に一年間、スタッフとして活動。そのまま就職し、二〇一五年から理事長を務めている。自身は小学五年から中学

三年の間、学校での人間関係に悩み、引きこもりや不登校になった。「居心地の悪さがあった」と振り返る。新しいことを始めたいと飛び込んだ学生時代のNPOでの活動。始めた当初は悩むこともあつたが、いつも職員が話を聞いてくれた。「居心地が良く、肩ひじ張らずにいたれた。自分の居場所があると感じた」

キャンプは一泊二日や三泊四日で、上味見地区で年二十回ほど開催している。かつての細川さんと同様に学校を休みがちな子どもや、発達障害のある子どもも受け入れている。

キャンプでは子どもの自主性を重視。最初に参加者は全員で「キャンプファイア」や「肝試し」など内容を決める。子どもたちはほとんどが初対面だが、終わるころには「新しい友達と別れたくない」と泣く子もあるという。センター近くにある伊自良の里で十四日に開催される恒例の「伊自良祭り」では、会場に初めてブースを出す。たき火での調理や木を使つた工作などの体験をしてもらう。細川さんは「NPOが開催するキャンプを一人でも多くの人に知つてほしい」と意気込んでいる。（籐下千晶）

日刊
県民
福井